2020年を振り返る

今年も残すところあとわずかとなりました。皆さんにとってこの一年はどんな年でしたでしょうか。

今回は、大垣市の一年間の市政の動きや街の出来事を振り返ります。

市役所新庁舎盛大に完成開所式

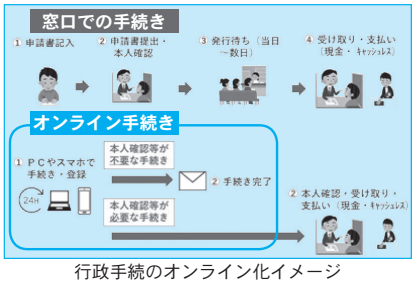
まちづくりの新たな拠点となる市役所新庁舎の供用開始を前に、１月５日、完成開所式を開催しました。テープカットや市民の皆さんによる合唱が披露されたほか、北幼保園の園児と来賓の皆さんが、白ハトと風船を大空に放ち、新庁舎のスタートを華やかに彩りました。

新庁舎は、免震構造を採用し、非常用発電設備を整備するなど、防災拠点としての機能を維持することができ、市民の皆さんの安全・安心を守る「自立型庁舎」としています。また、新庁舎整備にあわせて、情報通信技術（ＩＣＴ）をはじめとする最先端技術を活用した「電子市役所」を構築し、利便性の高い市民サービスを提供しています。

新庁舎は「市民の集う庁舎」を基本理念としており、１階多目的スペースでは、新庁舎オープンを記念した「文化勲章受章者・守屋多々志の先人と郷土ゆかりの画家たち」絵画展を開き、本市出身の守屋多々志氏をはじめ、郷土ゆかりの画家たちの絵画11点を一堂に展示しました。そのほかにも、夏休みの特別企画として「デジタル水族館」が登場しました。大型スクリーンに投影された高精細なＣＧの海を、スキャナーで取り込んだ魚が泳ぎだし、体験した親子らは、最先端の技術に触れて楽しみました。

「デジタルスマートシティ大垣」へオンライン化を推進

新型コロナウイルス感染症に対応した社会経済活動に向けて、オンライン社会のまちづくりをさらに進めました。



行政手続のオンライン化イメージ

「デジタルスマートシティ大垣」を実現していくため、スマートフォンやパソコンから申請や届け出などの行政手続を行えるように、令和３年４月からの運用開始に向けてシステムを構築しているほか、オンラインで空家バンク登録物件の見学や移住相談ができるようにしました。各種講座などもテレビ会議アプリを利用して、リモートで開催しています。また、図書館では、簡単に読書記録を残すことができる「読書メーター」との連携を開始しました。

学校教育においても、オンライン学習に対応できるように環境整備を進めているほか、全国初の取り組みとして、無料通信アプリ「ＬＩＮＥ」で児童生徒の欠席や遅刻などを学校に連絡できるシステムを導入しました。

モザイク壁画「西濃の四季」新庁舎へ移設完了

市役所旧庁舎ロビーに設置されていたモザイク壁画「西濃の四季」が新庁舎議場に移され、８月26日に移設完了披露式典を開催しました。

「西濃の四季」は、本市出身の芸術家・矢橋六郎氏が手掛けた作品で、市の木クスノキを中心に西濃を象徴するモチーフを自然石で表現した美しいモザイク壁画です。

式典後には、市民鑑賞会を開催し、竣工当時の輝きを取り戻した作品を多くの皆さんにご覧いただきました。

大垣市版「ＧＩＧＡスクール構想」取り組み進む

小中学校の情報通信技術（ＩＣＴ）環境を整備する国の方針に合わせて、学習イメージや運用の仕組みを独自に定めた大垣市版「ＧＩＧＡスクール構想」を策定し、子どもたちが豊かに学習できるよう、児童生徒へ１台ずつタブレット端末の整備を進めました。また、ソフトバンク㈱や㈱ベネッセコーポレーションなど、教育や情報の関連企業のノウハウを取り入れるため、連携協定を締結し、この構想の具体化に取り組んでいます。

関ヶ原合戦420年記念フラワーガーデンと特別展

関ヶ原合戦420年を四季折々の花飾りで彩る特設花壇「フラワーガーデン」を大垣駅南口広場で開催。令和３年３月まで設置され、石田三成などの家紋や数字の420を季節ごとに花などでデザインしています。

また、大垣城では「石田三成～幻の大垣城決戦～」と題した特別展を、令和３年１月11日まで開催しています。